

◆感想文「真夏を前にした夜の真実への目覚め」◆

高槻市 23期 畑地 豊

こんにちは 23期畑地です。

北辰会HPで兼田さん投稿の「歴史探訪作品/21.06.06」を興味深く拝読させて頂きました。

『NHK放映/小吉の女房2』 / タイムリーな話題であるところへ来て、それがおらが住まいの隣近所のことではないかいな！ ほっとけません！ となると北辰会きっての歴史探索の第一人者兼田さんの出番はさすがです。

『御願塚』：北野時代に、またそれ以降もビジネスで伊丹、尼崎方面に用事があって出向くときに時々この名前、地名を『目』にしました。

『この土地にとって何か歴史的に深い謂われがあるのだろう、其れゆえに今日でもこうして大事に温存されているのだろう』と言う程度の認識と感想でしか有りませんでした。読み方も『おねがいづか』、詳しく調べもしないで、勝手に解釈して今日まで生活してきました。正しい読み方はこの兼田さんの作品で今日（こんにちは）初めて認識しました。由緒ある地名を大事に温存されておられる地元の皆様方に申し訳なかったという反省の気持ち、私の頭を“げんこつ”が襲いました。

それにしても『北辰会』に身を寄せていることのなせる業であると思うと『北辰会』様さまであります。

先ずは深くお礼申しあげ、『北辰会よ永遠なれ』と言いたいです。

散歩の途中で見つけた今を盛りの“ヤマボウシ”の写真を添付します。花言葉（友情）、私達も友情で永遠に仲良く歩みたいですね！（完）

ヤマボウシ

梅雨の時期に花が咲くのが特徴です。ヤマボウシは、つぼみの集まりである丸い部分と花びらのような白い部分が、頭巾（ずきん）をかぶった僧の頭に見えることからヤマボウシ（山法師）とよばれるようになりました。

白い4枚の花びらのように見える部分は花びらではなく、総苞片（そうほうへん）とよばれる葉が変形したものです。真ん中の球形の部分は小花が集まった場所で、花序（かじょ）とよばれます。また苞（ほう）とは、つぼみを包むように葉が変形したものをいいます。

総苞片が枯れはじめると花序の花が咲きだします。花の後には果実ができて9～10月に熟します。甘みがありますが今の人はあまり食べません。食べたのは遠い思い出。

（この項の追記編纂/事務局：兼田）

